

2026年度 室戸ユネスコ世界ジオパーク 学術研究助成金 募集要項

室戸ジオパーク推進協議会（以下「推進協議会」）は、室戸ユネスコ世界ジオパーク（以下「室戸ジオパーク」）を対象とした多様な学術調査・研究の推進およびその成果を地域に還元するため、以下のような研究課題に取り組む者に研究費の助成を行う。

1. 助成対象

室戸ジオパークで実施する研究課題とする。自然科学、人文科学、社会科学、教育学や、自然・文化遺産の保護に関わる研究など、あらゆる研究分野を助成対象とする。

2. 助成対象者

- (1) 助成対象者の年齢、職業、所属は問わない。個人、団体のいずれでも応募は可能である。ただし以下の(2)、(3)のいずれも遂行できる者に限る。
- (2) 研究助成期間が終了する3月*に推進協議会が開催予定の市民向けの成果発表会(サイエンスカフェ)で講演を行い、同年3月中に実績報告書および決算書を提出すること。
- (3) 研究助成期間の終了後1年以内*に、研究成果を学会発表・論文のいずれかの形で公表すること(助成対象者が高校生以下で学会発表や論文での公表が難しい場合は、それに変わる形で研究成果を公表すること)。

*4.助成期間の項を参照。

3. 助成件数と助成金額

- (1) 今年度は3件の研究課題に対して助成する予定である。
- (2) 助成金額は研究課題1件あたり25万円を上限とする。
- (3) 助成対象経費は、助成対象者の住所または所属先所在地から室戸市内の調査研究地までの旅費(宿泊費も含む)、研究の遂行に必要な経費及び研究成果のとりまとめに必要な事務経費とする*。

*別紙「室戸ジオパーク研究助成金 取扱要領」を参照。取扱要領に記載のない特別な事情による経費がある場合は、事務局に事前に相談すること。

4. 助成期間

- (1) 研究助成期間を「1年間(2027年3月まで)」・「2年間(2028年3月まで)」のいずれかで選択する。応募後の変更はできない。助成金額はいずれも上限25万円とする。
- (2) 2. 助成対象者の(2)(3)の項目と助成期間の対応関係は下表を参照のこと。
- (3) 「2年間」を選択したものについては、2027年3月中に推進協議会へ中間経過報告書を提出するものとする(下表)。

研究助成期間と スケジュール	経過報告	サイエンスカフェ (市民向け成果発表会)	実績報告書 ・決算書	学会発表もしくは 論文として公表
1年間(2027年3月まで)	必要なし	2027年3月予定	2027年3月末	2028年3月末まで
2年間(2028年3月まで)	2027年3月 (中間経過報告書)	2028年3月予定	2028年3月末	2029年3月末まで

5. 応募方法

以下の応募書類を応募締切までに室戸ジオパーク推進協議会事務局あてに提出すること。

応募書類

- (1) 室戸ジオパーク学術研究計画書
- (2) 助成金収支予算書
- (3) 経費の算出根拠となる資料のコピー

応募締切：2026年4月22日(水)必着

- (1) 応募書類の(1)と(2)は室戸ジオパークのWebサイトからダウンロードした書式をもとに作成すること(応募書類[3]の様式は任意)。
- (2) 室戸ジオパーク研究助成金取扱要領に基づいて助成金収支予算書を作成すること。あわせて、経費の算出根拠となる資料のコピーも提出すること(例：消耗品購入費や交通費の算出に使用した金額のわかるものなど)。

応募書類の提出方法は次のいずれかによること。

① 郵送で提出の場合

応募書類を封筒に入れ、封筒には「学術研究助成応募書類在中」と朱書きして応募書類の送付先にある住所に郵送すること。

② オンラインで提出の場合

- ・ 応募書類は全て PDF 形式にし、応募書類の送付先にあるメールアドレスに PDF をメールに添付して送付すること。応募書類のデータの容量は 5MB 以内に収めること。
- ・ メール の 件名 に は 「【学術研究助成応募】」 と 入 れ る こ と

6. 応募に関する条件

- (1) 昨年度の本助成の受給者は、今年度は研究代表者として応募できない。また過去に採択された研究課題をそのまま継続するものは認められない。
- (2) 過去の本助成事業で不採択となった研究課題も再度応募可能である。
- (3) 大学院博士課程までの学生が筆頭応募者(または研究代表者)として応募する場合は指導教員へ相談の上、研究計画書への指導教員の署名・押印を必要とする(オンラインで応募書類を提出する場合、署名・押印のあるページも PDF 化して送付すること)。

7. 審査と採択の方針

審査の方針

- (1) 提出された応募書類は推進協議会の学術顧問、専門員および専門アドバイザーによって審査される。

なお、2025 年度の応募書類は、地球科学、動物学、化学、人文地理学、国際交流などの専門家やジオパーク関係者、合計 10 名の審査員によって応募書類の審査がなされた。

- (2) 応募書類は以下の評価項目ごとに採点される。

(ア) テーマ、着眼点の良否、新規性

(イ) 研究計画の妥当性

(ウ) ジオパークへの貢献度

各項目は 20 点満点で採点され、ア～ウの評点の合計がその応募書類の総合評点 (60 点満点) となる。

採択の方針

基本的に、上記の総合評点が最も高かった上位3件の応募研究課題を採択する。ただし採択研究課題を選考する過程では、以下の2点が考慮される。

- (1) 採択予定の研究課題3件のうち1件を学生優先枠とし、大学院博士課程までの学生が筆頭応募者(または研究代表者)の応募研究課題を優先的に採択する。
- (2) 総合評点がほぼ同等の評価であった場合、女性が筆頭応募者(または研究代表者)である応募研究課題を優先的に採択する。

審査の集計結果は推進協議会事務局と学術顧問で共有され、両者の協議の上で推進協議会事務局が採択研究課題の候補を選抜する。毎年6月頃に開催される推進協議会の総会での承認を経て、最終的に採択研究課題が決定する。総会終了後、採択/不採択の結果は全ての応募研究課題の筆頭応募者(または研究代表者)にメールで通知される。

8. 助成金の交付

助成対象者には、採択通知メールに添付して口座振込依頼書が送付される。助成対象者は銀行口座番号・名義を記入して推進協議会事務局に返信すること。振込書の記入および返送がスムーズになされた場合、郵送による通知および、助成金の振込を7月上旬(予定)までに行う。

9. 助成後の取り扱いについて

- (1) 助成対象者の氏名、所属、研究テーマ、実績報告書は室戸ジオパークのWebサイト、SNS、各種広報媒体で公開される。
- (2) 本助成を受けた研究成果を学会や学術誌などで公表する際は、研究の一部に本助成金を使用した旨を明記すること。また公表した場合は推進協議会事務局に報告すること。
- (3) 論文別刷りなどの研究成果物は推進協議会事務局に提出すること。
- (4) 研究助成期間の終了時には推進協議会事務局が決算書と領収書を確認する。室戸ジオパーク研究助成金取扱要領や研究テーマ、本研究助成の理念にそぐわない不適切な助成金の使用が判明した場合、助成金の一部または全額の返金を求める場合がある。

応募書類の送付先(研究助成についての問い合わせ先)

室戸ジオパーク推進協議会 事務局 (担当: 柿崎・工藤)

住所：〒781-7101 高知県 室戸市 室戸岬町 1810-2

メールアドレス：info@muroto-geo.jp

TEL: 0887-22-5161

参考：過去3年間に本助成に採択された研究

2025年度（4件応募、以下3件を採択）

- ・ 植木 岳雪（帝京科学大学）「室戸市、佐喜浜集落における低位段丘のボーリング調査」（研究助成期間：1年間）
- ・ 津野 義大（高知大学大学院）「室戸半島周辺海域に生息する海産性魚類の解明」（研究助成期間：1年間）
- ・ 山本 紫月・仮谷 蘭々・谷渕 広河・山本 翔馬（高知県立室戸高等学校）「外国人巡礼者の室戸滞在促進に向けた段階的研究 -ガイドブックと宿泊支援を通して」（研究助成期間：2年間）

2024年度（12件の応募、以下3件を採択）

- ・ 中山 健（高知大学）「室戸半島の付加体構成岩で形成された硯の地質学的特徴とその文化的背景—室戸ユネスコ世界ジオパークにおける硯を題材とした科学・文化融合事例紹介に向けて—」（研究助成期間：2年間）
- ・ 大久 雅貴¹・内田 嗣人^{2,3}（¹四電技術コンサルタント，²四国総合研究所，³高知大学）「室戸半島周辺における巨大分岐断層の分布と性状」（研究助成期間：2年間）
- ・ 吉田 匠（信州大学大学院）「水生昆虫を用いた室戸半島周辺特有な生物相の形成プロセスの検討」（研究助成期間：1年間）

2023年度（19件の応募、以下3件を採択）

- ・ 植木 岳雪（帝京科学大学）「羽根川上流、中川内における還流旧河谷の形成年代：中川内ジオサイトの学術的価値を高めるために」（研究助成期間：1年間）
- ・ 森 渉（広島大学大学院）「高解像度3Dモデルに基づく室戸半島の詳細な離水海岸地形の分布と地殻変動」（研究助成期間：1年間）
- ・ 吉田 彬人（京都大学大学院）「『長宗我部地検帳』にみる室戸地域の職人分布とその存在形態の解明」（研究助成期間：1年間）

本学術研究助成金は、高知県とイオン株式会社様との包括連携協定に基づき、イオンリテール株式会社様および株式会社フジ様よりご寄付いただいた「室戸ジオパーク WAON カード」の利用金額の一部を原資としています。
ここに、両社のご支援に対し、深く感謝申し上げます。

